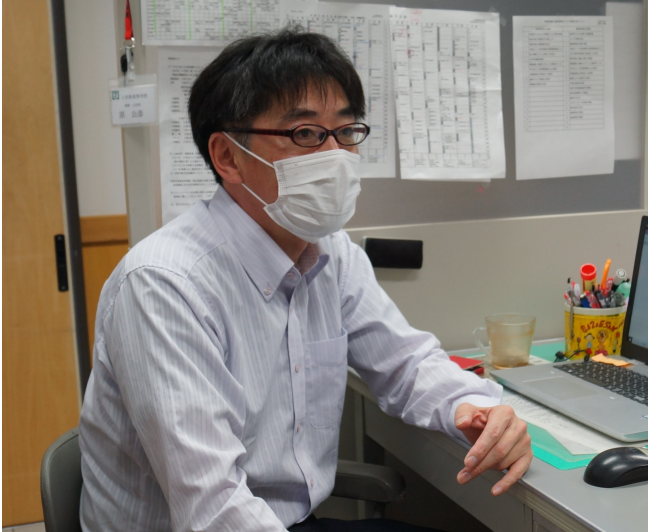


千西一遇

第68号
発行
2020年
9月10日(木)
校委会
上田西高
新聞編集
局長:高杉月
佐和
稲津そよ
生亀亜実
中村光里
松木萌愛

上田西高校の進路指導



新設された特進指導部長に就任した原公彦先生

大学入試制度の変更やコロナ禍により受験生は大きな影響を受けることとなった。上田西高校も例外ではない。進路を取り巻く情勢は常に変化しておりそれへの対応が必要だ。今回は、新設された特進指導部、新しい大学入試制度について、昨年度特進コースから多くの国立大学合格者を記録したクラスの秘密に迫る。

特進指導部を新設

進学コースの進路指導もサポート

近年、上田西高等学校の進学実績は上がってきている。昨年度は特進コースから合計20人を越える国立大学合格者を出し、生徒の目標も上昇傾向にあるといえるだろう。

大学入試を取り巻く状況が変化していく中、今年上田西高校に特進指導部が新設された。特進・進学コースの枠を飛び越えて進路指導を行うための部署である。初代特進指導部長には原公彦先生が就任した。

特進指導部が設立されるに当たっては、長年進学コースへの進路指導が特進コースと比較すると薄い、という問題があった。「生徒任せになつていいる部分が少なくなかった」と原先生は話す。「特進コースだけではなく進学コースの生徒にももっと上に挑戦しようという気持ちを持ってもらう」ともにとともに、本望に望む進路に進んでほしい」と

公彦先生が就任した。

「進学コースにも手厚い進路指導を」ということで今年度は1年生の進学コースに特別編成クラスが編成された。進学コースの時間割で国数英は特進コースと同じ教科書を使用。文武両道の達成を目指す。強化指定部に在籍しながら、難関大学への進学も目指したいという生徒の声を形にしたものである。忙しいクラスでは

あるが、設立目的を達成することが期待されている。また、特に特進コースからの国立大学合格者が目立った昨年の進学実績について、「自分の力で最後まで挑戦する姿勢のある生徒が多かったことが理由にある」と原先生は話した。妥協という形での推薦入試には頼らず、一般にせよ推薦にせよ自分の力で最後まで挑戦し、望んだ進路に進んでいったそう。そういう姿勢の面も、特進指導部でサポートしていきたいという。

(宮原佐和・松木萌愛)

新大学入試制度について

コロナの影響で一部日程に変更も

今年から大学入試制度が大きく変わる。ただでさえ変化が大きい中、新型コロナウイルスの影響が進路にどのような影響を与えるのか。新聞委員長の高杉月が進路指導主任の阿部薫之先生に話を聞いた。

高杉 今年度からの大学入試制度の変更点を教えてください。

阿部先生 1番は、まず名称が変わります。一般入試と言っていたのが一般選抜、推

薦が学校推薦型選抜、AOが総合型選抜になります。日程の方も少し後ろ倒しになり、2週間から1ヶ月ほど遅くなりました。

高杉 問題や出題方法などは変わりますか？

阿部先生 学校によって違うが、受験生で1番大事な大学共通テスト、去年までセンター試験と言われたもの、それが一応記述式が無くなり、出題のされ方は少し形が変わると思います。

高杉 新しい大学入試に向けた対策の仕方は？

阿部先生 なかなか難しい質問ですね。思考力を問う問題が出されると言うことなので各教科の先生方がそれに沿って対策をしてくれているとは思いますが、生徒たちもそういう問題に慣れる姿勢が必要だと思います。

高杉 コロナウイルスによって受ける影響はありますか？

阿部先生 それはまだちょっとハッキリは分からないですが、日程的なものは少し。例えばAO推薦型みたいなのは少し日程が増えたり、一般入試などは範囲が少し狭くなったりだとか、選択制の問題が増えるなど。各大学が考えてくれていると思います。各大学に任せられています。

高杉 推薦についてなんです。コロナウイルスの影響で昨年と大きく変わったことはありますか？

阿部先生 コロナウイルスによって変わったって言うのは日程的なものが少し遅くなったりしているが、それ以外はこれといって大きく試験は変わらないと思います。しかしAOとかでオープンキャンパスに参加しなければいけないといったものは、学校によって少し条件が緩くなる可能性はあると思います。

高杉 私が行きたい学校もお願いしたいと思えます。

阿部 本当に今年の3年生はコロナウイルスの影響もあって、非常に色んなことで大変な思いだったりと、大変な学年になってしまったと思えますが、受験に際しては浪人生は別として、基本的には条件は一緒なので下ばかり見ずに今与えられている状況で精一杯受験に向けて頑張ってもらいたいと思います。

高杉 最後に受験生に一言お願いします。

令和元年度 上田西高等学校 大学合格実績 (抜粋)

国立大学等	私立大学	医療系大学
秋田大学 1名	青山学院大学 1名	大阪歯科大学 1名
茨城大学 3名	亜細亜大学 1名	北里大学 1名
上越教育大学 2名	神奈川大学 4名	群馬パース大学 4名
信州大学 1名	金沢工業大学 8名	国際医療福祉大学 2名
福井大学 1名	専修大学 6名	佐久大学 5名
北海道教育大学 1名	玉川大学 3名	清泉学院大学 1名
青森公立大学 1名	中央大学 3名	創価大学 1名
釧路公立大学 1名	帝京大学 4名	大東文化大学 1名
高崎経済大学 2名	東海大学 4名	長野保健医療大学 8名
都留文科大学 2名	東洋大学 2名	新潟医療福祉大学 2名
東京都立大学 1名	獨協大学 1名	新潟薬科大学 3名
長野県立大学 1名	日本大学 4名	日本医療科学大学 1名
長野県看護大学 3名	文教大学 5名	横浜薬科大学 1名
前橋工科大学 1名	法政大学 2名	和洋女子大学 1名
防衛大学校 1名	松本大学 7名	など
	明治学院大学 1名	
	明治大学 1名	

現役2年連続で20名超えた

医療系にも強いんだね

合格実績には過年度生を含みます

とのひとことだ。

ピンチをチャンスに

最後に、今年の受験生に対し一言お願いした。原先生は、今回のコロナ禍に不安であろう西高の受験生にむけ、「仮に第一派が起って休校になったとしても、上田西は既にオンライン授業を確立済みなので、安心して勉強に励んで大丈夫。いろいろな問題に対してしっかりと考えて答えを出す姿勢を身につけてほしい。本当の答えはその先にあるもの。ピンチはチャンスです」と語った。



今年度の大学入試と新しい入試制度について話す進路指導主任の阿部薫之先生

昨年度特進コースから国立公立大学志望者の合格率66%という結果を残した上田西高校。その高い合格率の理由を知るべく、昨年特進コース(3年8組)の担任を務めていた松尾光国先生にその指導方法を聞いた。多くの国立公立大学合格者を出した秘訣を勉強面とメンタル面から探る。

昨年度特進コースからの国立公立大学進学率が高かったことを受け、特進コースの担任を務めていた松尾先生に、どのようなメンタル面の指導をしていたのか聞いた。最初は聞いたことは、「受け身じゃないよ主体性」



昨年度特進コース(3年8組)の担任を務めていた松尾光国先生(写真上)とクラス目標 写真提供=入試広報係(写真上)

受け身じゃないよ！
主体性！ 感謝・笑顔・信頼

という去年のクラス目標について。この目標は生徒が自ら作り上げた。松尾先生は1年生の最初に「何に出会うかが問題ではなく、出会ったものに対して自分で反応をきちんと返さない。目の前のものに対して嫌なことがあったから嫌な気持ち

になるのは主体性がなく受け身のメンタルだからそうやってはいけません。自分の見方が変われば見える世界も変わる」と生徒に話した。これを元に彼らは自分たちで目標を考え、「主体性」を持つ人間になりたいという思いを抱き、それを受験の厳しさに対して受け身にならずに取り組みの礎にした。目標とは「習慣」であり、心を鍛えていないと勉強にはならない。

理想の人間像 確立を目指す

次に、勉強と精神、どちらを先に鍛えるべきか聞いた。松尾先生によると、「どちらも大切だが順番があるとす

メンタル面 「積極的」ではなく「主体的」に

ればまず「心」だという。「学習の負荷によって精神力が鍛えられることもあるが、それはつらいことに対して耐える力。耐えた先にゴールがあるとなれば全く違う。もし、〇〇大学に行きたいという目標があってもそれはあくまで受かることが目標であるため大事なゴールではない」と続けた。松尾先生は、「人生の最後には思い浮かべる『自分の理想の人間像』に向かって、まず大学でそんな人間になるために研究し、

主体性と積極性の違い

松尾先生はクラス目標の「主体性」という言葉に関して「(生徒に)誤解なく伝わったと思います」と話した。これは「主体性」というのは自分で考えたことを積極的にやることではない」という意味だそう。主体性と積極性は違う。では、どのように違うのか。松尾先生

「受け身の人間は勝つことができない」

によると、「自分がこうだと思ったことを積極的にやることを主体性、積極的だと思つ人はたくさんいるが、それは主体性ではない。自分がやりたいと思つたことを我慢できずにやることは欲望に忠実なだけ」「やる選択肢もあればやらない選択肢もある。その選択肢の中でやるか決めるのが主体性」と話した。

受け身にならないということは、目の前の出来事に対して周りの状況ではなく自分でどう感じるか選択肢を作り、正しい判断をすることだ。つまり、目の前のものに対して想像力を働かせることであり、そのためには目の前にいる人が考えていることを想像することが必要。脊髄反射せずに、一回立ち止まるのが大切だ。また、松尾先生によると「受け身の人間は勝つことができない」という。受け身の人間は常に自分の行動の基準を外に置き、自分の行動の責任を取ろうとしなからず、自分の中でどこまでやりたいのか考えられないため、必ずどこかで妥協してしまう。そして最後に、何になるとかどこに行くとかではなく、「どういう自分でありたいか、それをすくく強調してほしい」と話してくれた。(生重亜実)

勉強面 英語と数学を学習の軸に

松尾先生は、1年生時の学習について、「模擬試験の時に何点目指しましょう」というのを示した。それから、学習の軸を英語と数学はとにかくきちんとやりなさいと指示をし、自分の担当教科の国語を二の次にして、英語と数学に全力を尽くしなさいと教えた」と話す。これは、英語と数

学が最もトレーニングが必要な科目であり、かつ、入試で最も必要とされる科目だからである。

次に一番力を入れたという2年生時の英語学習については、「朝のシステム英語と、NEXT STAGE Eという英語文法のドリルを毎日交互に作って生徒が取り組んだ。また、2学期

の頭の放課後から、英語トレーニングクラブを作った。木曜、金曜の授業が終わった後、5時から6時までに問題を配って取り組んだ」と話した。この英語トレーニングクラブでは、中学校と高校生1年生の復習のため、関係代名詞、不定詞、動名詞などのすべての句法をやり、3年生になると、生徒の自主性に任せたと話す。その自主性については「第一志望を譲らないことが大切だ」と話す。例えば、模試の結果で、その都度志望校を変更することは、一見分析的であるようで、実

は場当たりのだ。模試の結果が厳しかった場合、志望校を譲るか譲らないかの選択があり得るが、できることで行ける大学ならできることしかやらないことになる。しかし、できないことにチャレンジすることが結果に左右されず自主的な勉強の礎となる。

その他にも、2年生の最初に希望者に対し、早く正確に長文を読めるトレーニングのため、英語の個別課題を課し、200文字くらいの長文を配布したとのことだ。

同じく優先順位の高い数学では、「1年生にどこにか2次の式の展開と因数分解は徹底的に習熟しなさい」と伝えたという。理由とし

ては、「数学は着眼点を基に考えを組み立てるプロセスがあるが、これは、設計図と建築に例えられる。解答の計算の時間を早めるにはあらゆる面で使われる2次

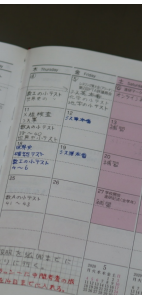
西高手帳を有効活用

全校に配布されている西高手帳の使い方についても聞いた。計画の立て方については、1年生の時と2年生の最初にも教えたという。その西高手帳を使い、「計画の立て方や、やらなければならないことの整理整頓ができていた」と松尾先生は話す。西高手帳を使いこなしているかどうかの基準については「西高手帳を使

う時に、1週間の予定と目標を立てていること。それから、重要なものから最初に予定に入れていくこと。事細かに日常生活の予定を立てていくので、大事なものを3つほど定めて、その3つが入っていれば、それでよし」と教えてくれた。

大学入試で結果を出すということは、日々の学習の積み重ねが重要になる。特に数学や英語の学習は、一朝一夕で力がつくものではなく、地道な努力が必要になることが改めて分かった。しかし、学習で大切なことはそれだけでなく、どのように予定を立てるかを進めていくかだ。その大きな助けとなるのが西高手帳だ。西高手帳を上手に使いこなしていくことも、学習と同じく結果につながる大事な要素に違いない。(稲津より)

予定を管理するために使用された西高手帳。毎年全校に配布される。この西高手帳は1年8組の生徒が現在実際に使用しているもの。



予定を管理するために使用された西高手帳。毎年全校に配布される。この西高手帳は1年8組の生徒が現在実際に使用しているもの。